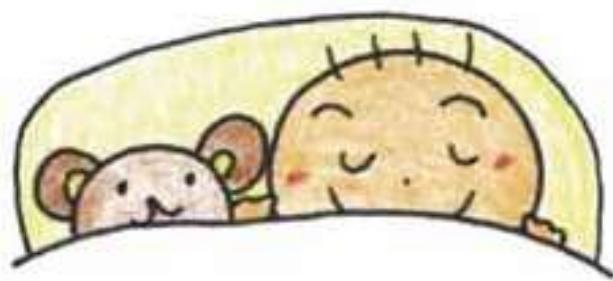


知りたい 今どき育児 “出産期”



夫の立ち合い出産の割合が増えています

ここ数年は、5割以上の夫が立ち会っています。立ち会いたかったけどできなかつたという人を合わせると、7割以上になります。陣痛～分娩まで、「主役」は産婦さんとその夫。祖父母の役割は、大仕事に取り組む二人のサポーター。「まだ？」と聞きたい気持ちをおさえて、親からの連絡を待ちましょう。



産院へのお見舞いは短めに

産婦さんは大事業を成し遂げて疲れています。「メイクをしていない状態で人に会いたくない」という人もいます。お見舞いがないのも寂しいけれど、多すぎたり、長すぎたりするのは考えもの。もうちょっといて欲しいと思われているうちに退室するのがコツです。もちろん、風邪気味の時はどんなに行きたくてもガマンしましょう。



「赤ちゃん、抱っこしていい？」と聞いてから

やっと出会えたかわいい孫！ 産院ですぐに抱っこしたいと思うのは当然です。でも必ず“なり立てのママ”的意向を聞きましょう。ホルモンの影響で、ママの感情のアンテナが敏感になっています。誰にも赤ちゃんを触られたくないという気持ちになることもあるのです。



赤ちゃんの名付けは、親に任せましょう

おなかの中にいるときから、ああでもない、こうでもないと一生懸命考えた結果です。あまりにも「個性的な」名前でも、親としての最初の決定事項に口を挟むことはやめておいた方が賢明です。「この中でどれがいい？」とたずねられるチャンスに恵まれる祖父母は、それほど多くはありません。



何でも手伝ってしまうのは考え方

赤ちゃんの世話は、できるだけ親に任せましょう。ぎこちなくて危なっかしくて、手や口を出したくなるのは当然ですが、練習しないと上手にはなりません。「親」が「親」になっていく大切な時期です。



じっと見つめないでください

生まれたばかりの赤ちゃんが、一生懸命おっぱいを飲んでいる表情は、本当にかわいいものです。でも、いくらかわいくても、授乳中の様子をじっと見つめないでください。ママは（たとえ実父であっても）男性の視線が気になるものです。



行事の主体は、赤ちゃんと両親です

かわいい赤ちゃんの顔を見ると、お宮参りの着物とか、盛大なお七夜祝いを、と思う方もあるでしょう。また、親せきや近所付き合いなどの事情もあるでしょう。でも、どんなお祝いをどんな形でするかは、親が決めることです。

双方の実家の思惑が入り乱れて、せっかくのお祝いが辛いものにならないように、上の世代が気をつかってあげられるといいですね。



乳幼児のチャイルドシート使用は義務です

産院からの退院時でも、赤ちゃんはチャイルドシートに乗せます。「かわいそだから抱っこして…」というときに、他の車がぶつかってきたら取り返しがつきません。

INFORMATION

お見舞いに何を持っていくか、悩みますね。

豪華な食事が売り物の産院だと、これ以上食べ物は必要ないし、日持ちしないものは困るし…。水分補給のためのペットボトルは重宝されるようです。

里帰り出産でお世話になった“嫁の実家”への「お礼」をどうしようかという悩みをよく聞きます。「うちの孫」「娘の子ども」という意識が絡み合って難しい問題になることがあります。「お世話になりました。」という感謝の気持ちをどんな形で表すか、まず、当事者の夫婦の考えをたずねてみましょう。

